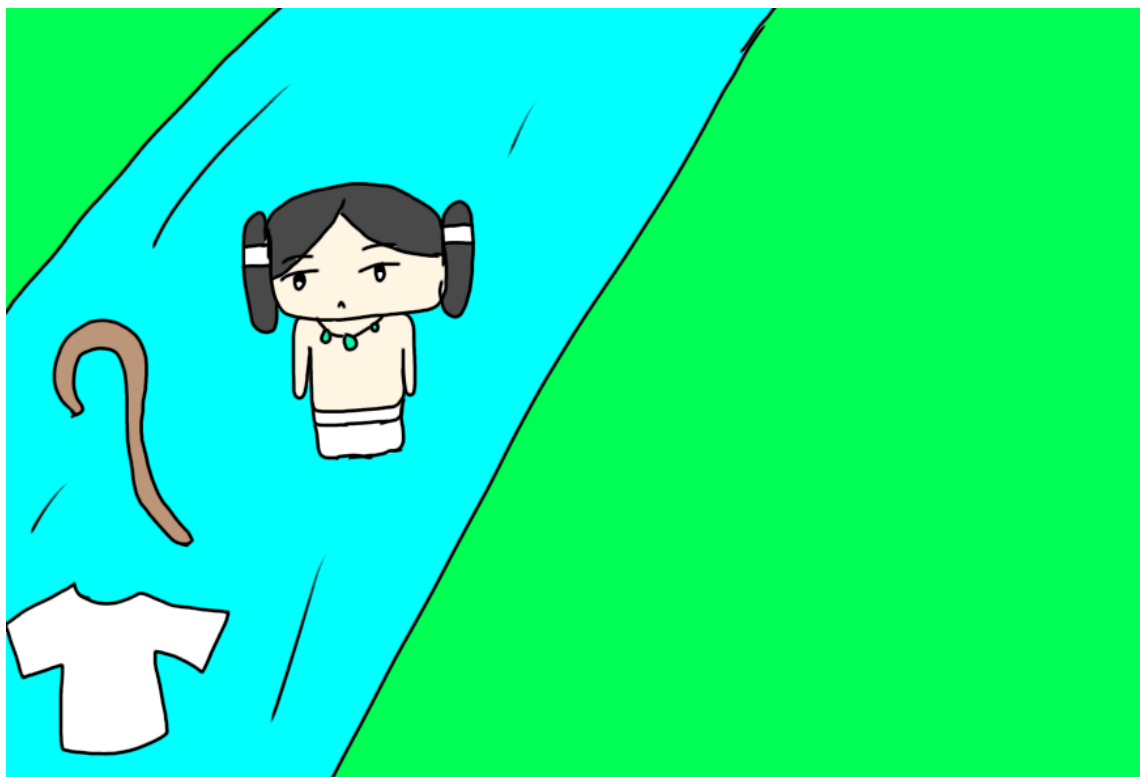


「天照大御神」の漢字に  
隠された意味

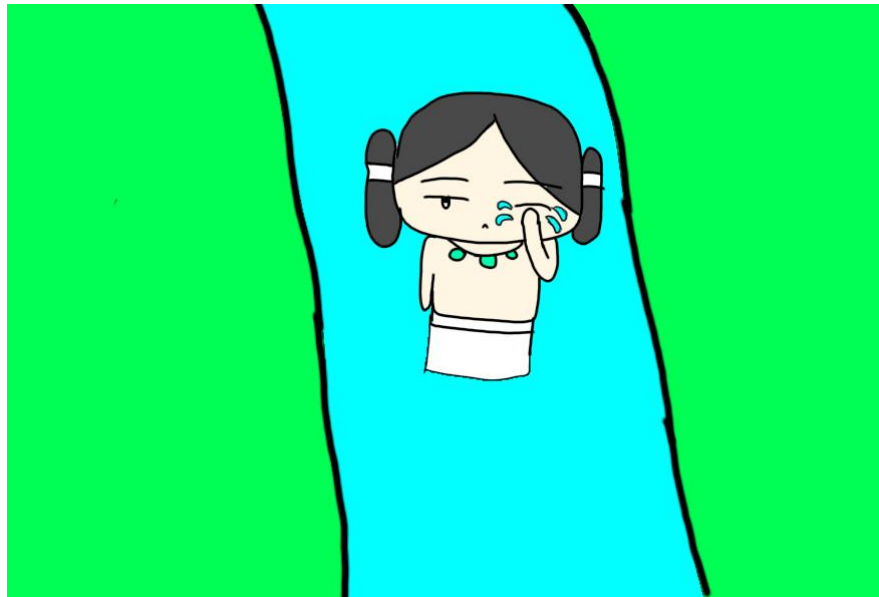


皆さんは古事記上巻における  
「天照大御神」  
の漢字に秘められた意味をご存じですか？

1. まずは生まれを軽く振り返り



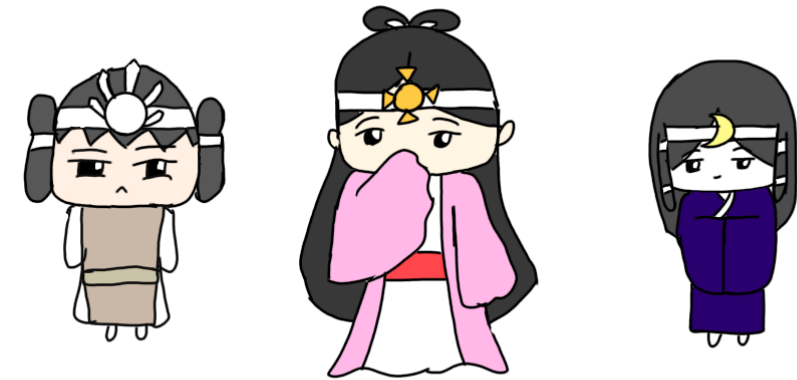
伊弉諾尊はある理由で  
黄泉の国（死者の国）へ行ったので  
禊を行いました。



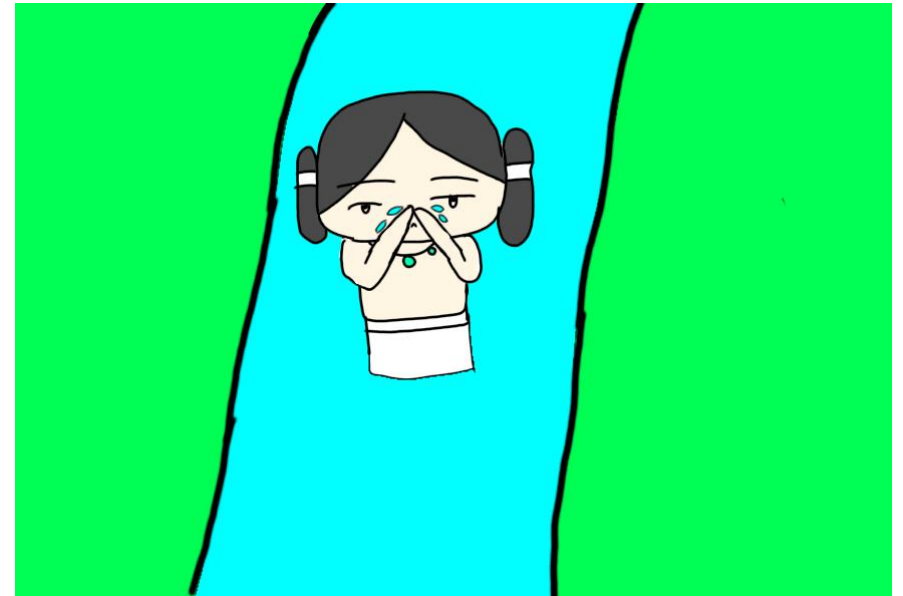
左眼を洗い



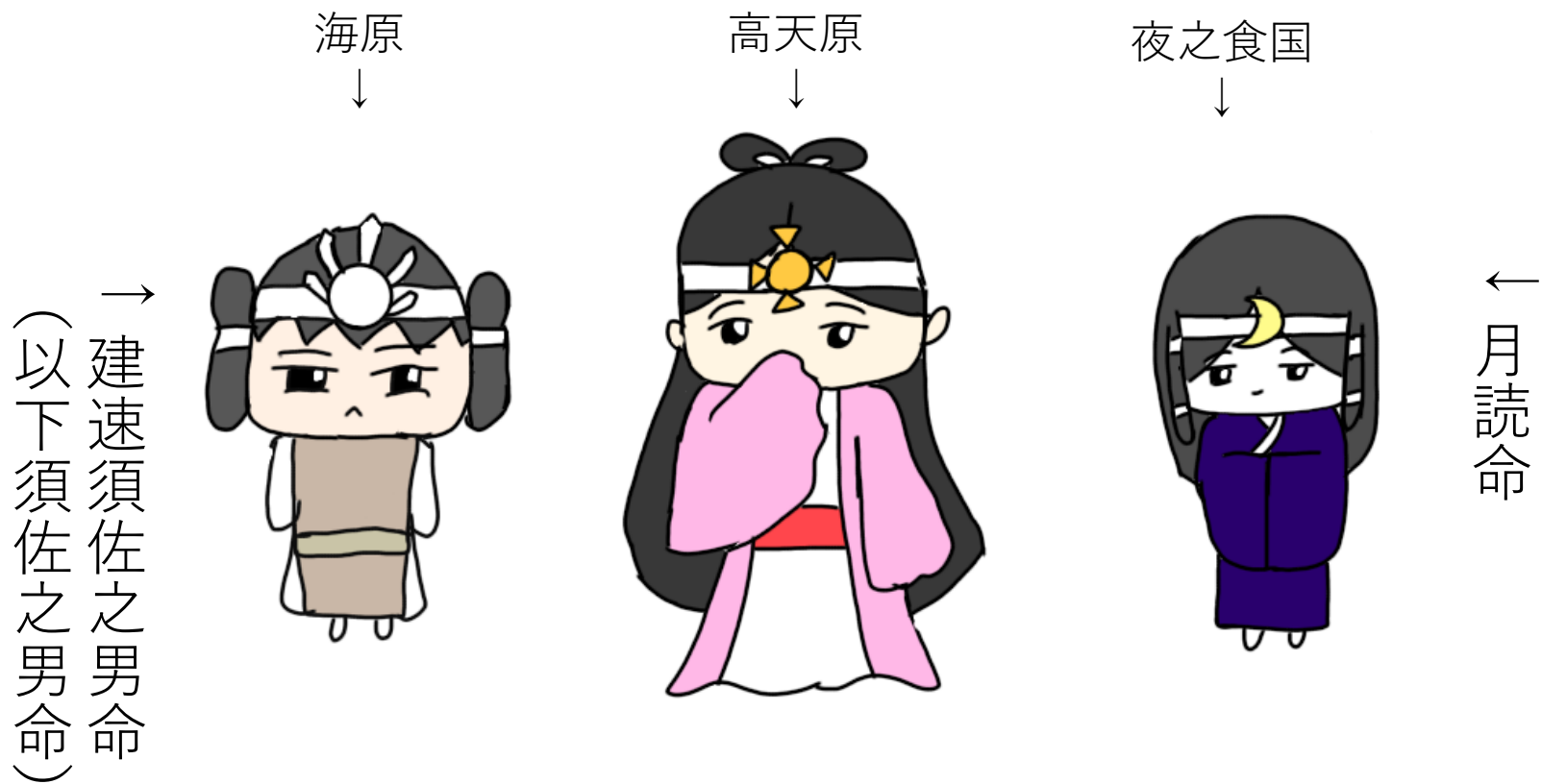
右眼を洗い↓



この三柱が生まれました



鼻を洗うと



生むことの終わりに貴い子を得た伊弉諾命は  
それぞれに大切な場所を治めるよう命じました

2.治めるように言われた後



須佐之男命は何年も黄泉の国へ行きたいと  
泣き喚いたため、伊弉諾尊は須佐之男命黄泉の国へ追放





須佐之男命は天照大御神に別れを言おうとしたが、  
天照大御神は須佐之男命が悪さをすると思ったため警戒  
します。



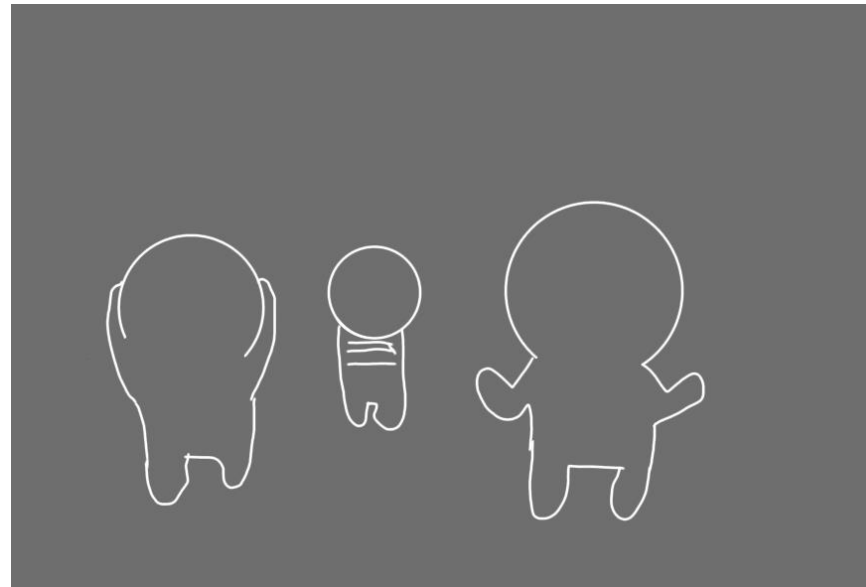
一応仲直りをしましたが、その後須佐之男命が暴れ、  
一柱の神が神去ります（死亡するみたいな感じ）



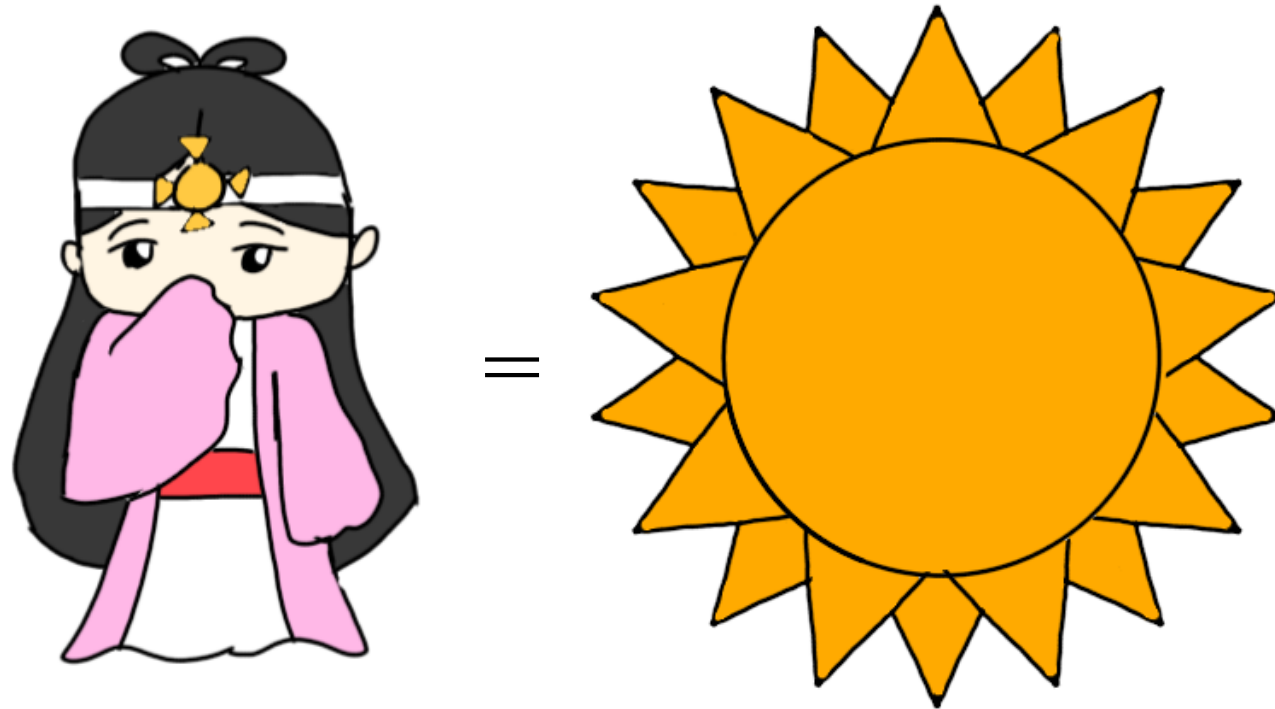
←天の岩戸（京都 日向大神宮）



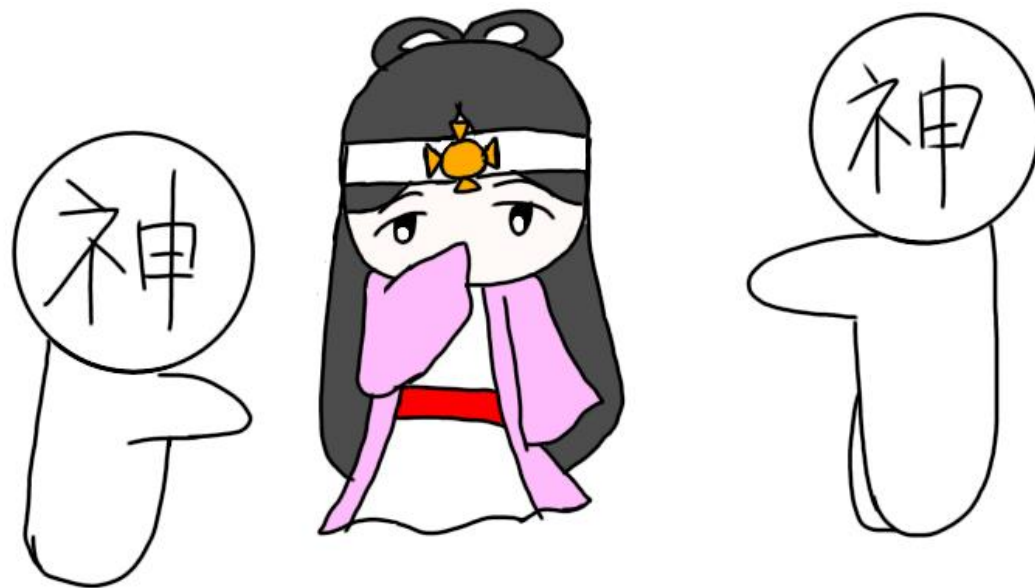
一柱が神去ったことで外が怖くなってしまった  
天照大御神は天の岩戸に閉じこもりました。



結果、世界が真っ暗になります。



ここからわかることは  
天照大御神 = 太陽  
ということ

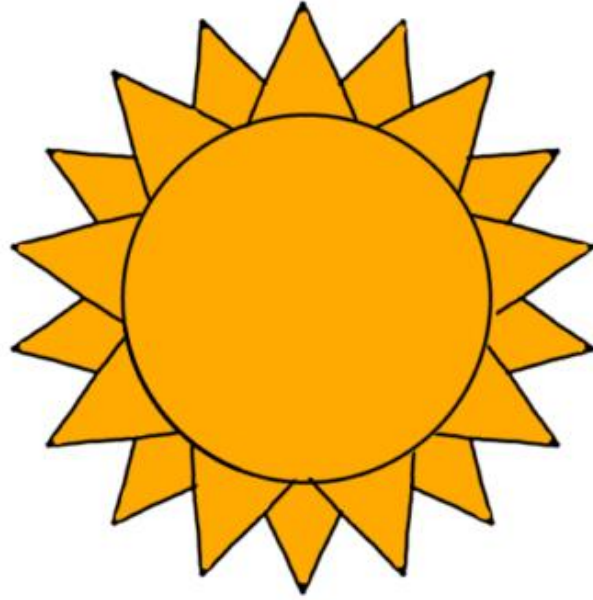


その後天照大御神が外へ出ると世界は明るくなり、  
他の神と相談して  
派遣会社のように神を土地に遣わします。

3.文書からわかるのはここまで  
ここからは漢字から考察

「天照大御神」の『大御神』は  
大神で一つの敬語、御で一つの敬語なため  
二重敬語となります





「天」「照」には共通して  
「太陽」という意味があります。  
このことから天照大御神が太陽を  
司っていたことがわかりますね



「天」にはほかに  
あめ、そら、自然、頼みとするべきもの  
という意味があります。

このことから空にいることがわかり、  
同時に困ったときに頼られていたことがわかります



「照」にはほかに  
光明を加える、かがやく  
○察する、つげさとす、知らしめる  
という意味があります。

このように、「照」には光に関連しない意味も  
含まれています



つげさとす神

太陽神

何かを察する神

何かを知らしめる神



これらのことから、天照大御神は  
様々なことを司っていたのではないのでしょうか

## 参考・引用文献

『古事記』 1997年6月 山口佳紀 校

『大漢和辞典』 昭和32年8月 諸橋轍次 著

提供：梅花女子大学Web出版

作成：西田琴音

制作年月：2024年7月